宇管工

宇工高へ実習資材寄贈

技能検定合格を後押し

実習資材を手渡す中村理事長（右）と石島校長

宇都宮市管工事業協同組合（中村勝理事長）は８日、県立宇都宮工業高校環境設備科に水道配管実習用資材約70万円分を寄贈した。中村理事長らが宇工高を訪れ、石島祐太郎校長に資材を手渡した。資材提供は14回目。

石島校長は「毎年の協力に感謝したい。生徒らの技能向上、地域に役立つ産業人の育成に頑張りたい」と感謝の言葉を述べた。中村理事長は「物価高騰、資機材高騰の中、一人でも多くの受験生が合格してほしい」とエールを送った。

技能検定の建築配管作業は来年１月に学科と実技試験があり、３級技能士に２年生33人、２級技能士に３年生３人が挑戦。合格すれば社会人１年目で管工事業の即戦力となる。寄贈資材で練習を繰り返し、ほぼ全員が合格するという。

他校は学校予算に制約があり、練習資材の購入には限度がある。昨今は資材高騰を背景に練習資材量が不足し、十分な練習を積めないまま受験。宇工高では一人当たり４～５回の練習を重ね、万全の態勢で受験に臨む。

宇管工は実習用資材一式をトラックで搬入し、生徒が配管作業中の実習室に運び込んだ。管工事業界の地域社会貢献、未来を担う若者の就労支援に技術系高校に手を差し伸べている。卒業生の一定数が宇管工加盟社に就職している。